



小児科紹介



平成24年7月に小児科長として赴任した西田です。

今回は、浜松医療センター小児科をご紹介します。

9月から内分泌外来とアレルギー外来（免疫療法外来）と神経外来を新設しました。以前からある心臓外来と合わせて、4部門の専門外来が整ったことになります。

内分泌外来は浜松医科大学から、緒方教授を含めた専門医を招きます。今まで以上に良質な医療を提供できると考えています。

アレルギー外来は、食物アレルギーや気管支喘息などの根本的な治療として注目されている免疫療法を中心とした診療を行う予定です。今までの治療では十分な効果がない場合に、免疫療法は有効な治療法である可能性があります。

小児神経外来では、てんかんや発達障害などの診療に力を入れる予定です。

地域の子供たちの健康をまもり、病気の子供たちが一日でも早く回復できるように、7名の小児科医が責任を持って全力で診療いたします。どうぞよろしくお願い致します。



研修医として・・・Relay Essay

みなさんは「研修医」にどんなイメージをお持ちでしょうか。

研修医の主な仕事の一つは、病棟に入院している患者さんを上席医とともに受け持ち診療に当たることです。毎日病室に顔を出して診察し、どんな検査が必要か、使う点滴や薬は何がいいかを考えます。まだ未熟なため一筋縄にはいかず、何冊も医学書を調べながら悪戦苦闘することも多いです。

もう一つは救急外来で、救急車で搬送された患者さんや、体調不良を訴えて自力で来院した患者さんの初期診療です。深夜に一睡もできないことがよくありますが、多くのことを学べる貴重な現場です。

これからも全力で診療に当たって参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。 研修医 古河 俊哉

みなさんはじめまして。今年3月に浜松医科大学を卒業して4月から浜松医療センターで初期研修をさせていただきます。大学の授業とは違い、実際に患者さんの診療に携わるのは学ぶことも多く充実した日々を送っております。患者の皆さんとのふれあいを大切にしてその人に合った医療が提供できる医師になれるように頑張りたいと思います。 研修医 大石 知也

〒432-8580 浜松市中区富塚町328

TEL 053 (453) 7111

: FAX 053 (452) 9217

URL <http://www.hmedc.or.jp>

: E-Mail kikaku@hmedc.or.jp

発行：浜松医療センター

ふれあい



当院の小児診療に携わる医師の皆さんです。

目次

- ◆小児科紹介
- ◆研修医として・・・Relay Essay
- ◆院内地震防災訓練（8月30日）
- ◆こちら、リハビリテーション科 ～パート①～
- ◆風疹（三日はしか）におけるワクチン接種について
- ◆摂食・嚥下障害看護認定看護師紹介

～ 自由にお持ちください ～

看護師募集中

～ 詳しくはホームページをご覧ください ～

浜松医療センター

検索





「平成24年度院内 地震防災訓練」 を行いました！

8月30日に院内の地震防災訓練を実施し、各部署から75名の参加がありました。

今回の訓練の目的は、「災害医療の基本概念CSCATTTのうちmedical managementにあたるCSCA（指揮命令・連携、安全、通信・情報、評価）について学ぶ」とし、トリアージ訓練ではなく、①CSCAの総論、②当院の地震防災マニュアルの説明、③災害医療情報システム（EMIS）入力訓練、④当院のライフラインの説明、⑤衛星携帯電話使用訓練の内容で実施しました。

当院は、静岡県内の災害拠点病院として認定されており、災害時に近隣病院の拠点となり、重症患者の受け入れ、参集するDMATの受け入れ、患者の後方搬送や広域搬送の手配をする役割があります。また、浜松市の救護病院として、応急救護所からの重症患者、中等症患者の処置及び収容を行い、また、医療救護本部からの要請に応じ、医療班を編成し、応急救護所へ出動する役割があります。

今回の訓練は、災害拠点病院、救護病院としての役割を果たすために、まず、地震災害が起きる前、起きたときに職員が何をどうするか、もう一度、自分の役割を確認するため、実施しました。今後は、参集訓練などの場面場面での細かい訓練を継続して実施していく予定です。



こちら、リハビリテーション科！～パート①～

リハビリテーションという言葉は最近よく耳にするようになってきましたが、その意味をご存知でしょうか。「リハビリテーション」(Rehabilitation)は、re(再び、戻す)とhabilis(適した、ふさわしい)から成り立っています。単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」が重要で、そのために行われるすべての活動がリハビリテーションです。

当院のリハビリテーション科は理学療法士(PT)9名、作業療法士(OT)8名、言語聴覚士(ST)2名の専門的スタッフがあり、担当医師や看護師と連携を取りながら病気やケガなどで体に障害を受けた患者さんの社会復帰をめざして活動しています。

リハビリテーション科長・診療支援部リハビリテーション技術科長・整形外科医長 甲山 篤

風疹(三日はしか)におけるワクチン接種について

今年に入り風疹が流行しています。全ての患者を報告するようになった平成20年以降、最多の報告数を記録しています。

特に20～40歳代の男性の報告が多いのが特徴的です。風疹は自然軽快する予後良好な感染症ですが、妊婦が風疹に初感染すると生まれてきた赤ちゃんに障害を残してしまう可能性があります。その予防のため、平成7年までは女子中学生に対してのみワクチンの定期接種が行われていました。また、1回のワクチン接種では効果が不十分だったため、平成18年から若年者を対象にワクチンの2回接種が始まりました。以上の経過から、抵抗力を持たない20～40歳代の男性が多かったことが今年の風疹の流行に繋がったものと推測されています。

風疹に罹ったことの無い、又は予防接種を受けたことが無い方、その中でも特に妊娠の可能性のある方や、妊婦に接する可能性のある方は事前の予防接種をご検討下さい。

感染症科 島谷 倫次

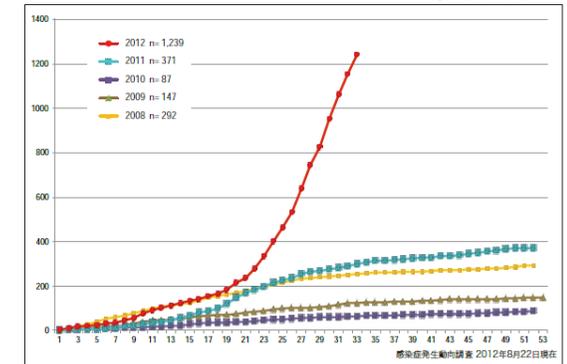
摂食・嚥下障害看護認定看護師紹介

摂食・嚥下障害看護認定看護師として、脳血管障害など様々な理由で口から食べることができない、体力・筋力の低下に伴い、飲み込む機能が低下し今までと同じ食事が食べられない、お水が飲みにくいなどの症状がある患者さんへ関わらせていただいています。患者さん、家族の食べたいという気持ちを大切に、食べられる口作りと体作りや、嚥下機能にあった食事形態の提供などを援助しています。

患者の皆さんと家族の思いを尊重し、援助していきたいと思っていますので何かありましたらいつでも声をかけてください。山田悠紀子



1. 風しん県報告数の推移2008～2012年(第1～33週)
Cumulative number of rubella cases by week, 2008-2012 (week1-33)
(based on diagnosed week as of August 22, 2012).



国立感染症研究所ホームページより

2号館9階の脳神経外科病棟に勤務しています。脳の障害によって、食べることや飲み込むことが難しくなる摂食・嚥下障害がある患者さんのケアを行っています。人間にとって「食べる」ということは大切な本能の一つであり、生きていく上で欠かせない行為です。

患者さんの症状を観察・判断し、「口から安全に食べ物が摂取できる」ように、食事の形態・道具・姿勢の調整、食べるための訓練等に取り組んでいます。 江間沙記